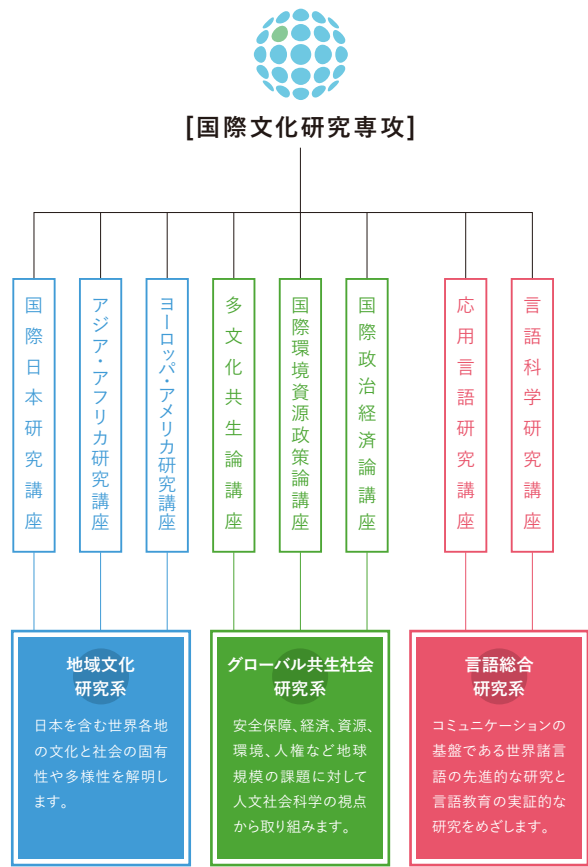




教育プログラム Educational Program

東北大学大学院国際文化研究科は、国際文化研究専攻のもとに新たな知の創出をめざす先端的な3つの教育プログラムから構成されています。



【博士課程後期3年の課程(博士)】

博士課程後期3年の課程のカリキュラムは、極めて高い専門的知識と研究能力に加えて、ボーダレス化が進行する現代にあって、高度な外国語運用能力と幅広い国際的教養を基礎に、創造的で精緻な思考を展開し発信できる人材の育成を目的とします。

【博士課程前期2年の課程(修士)】

博士課程前期2年の課程(修士課程)のカリキュラムは、専門的研究を遂行する上で必要な学力を身につけるとともに、幅広い異文化理解力と高いコミュニケーション力を備え、グローバルな問題を自立的かつ主体的に解決する能力を備えた専門職業人、専門家、教育実践者の育成を目的とします。



ロケーション Location

歴史と伝統が息づく、東北一の都市“杜の都”仙台

伊達政宗を藩祖とする仙台藩の城下町として栄えた仙台は、その歴史の面影を感じさせる情緒あふれる街並と豊かな自然、政令指定都市としての現代的な街並が融合する東北の中枢都市です。

“学都仙台”とも呼ばれている仙台は、治安が良く、学生に優しいと評判の高い街です。大型百貨店も多く、ショッピングなどの生活の便がよいと好評です。気候は比較的温暖で積雪は少なく、生活しやすい街です。質の高い教育環境を兼ね備え、緑あふれる豊かな自然を背景に、より研究に集中できる最適な生活環境を整えています。



写真提供：仙台市観光課

GSICS TOHOKU UNIVERSITY 〒980-8576 仙台市青葉区川内41
TEL.022-795-7556 (教務係) FAX.022-795-7556
Email.int-kkdk@grp.tohoku.ac.jp

詳しくはホームページをご覧ください。

東北大学大学院国際文化研究科

検索

<http://www.intcul.tohoku.ac.jp>



(2019年7月)



東北大学大学院 国際文化研究科

Graduate School of
International Cultural Studies,
Tohoku University



Global Reach through Global Understanding

世界を理解し、世界に発信する。

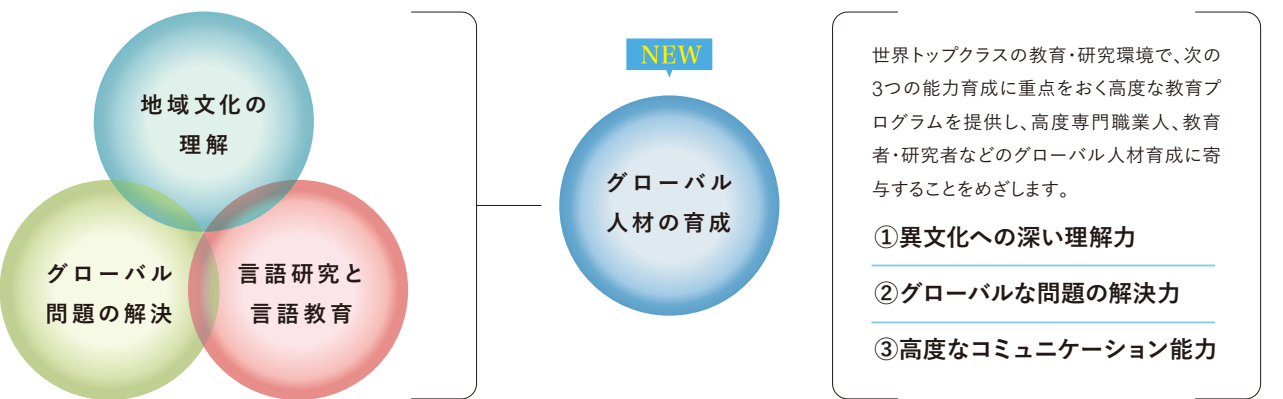
ミッション Mission

今日、私たちの社会が直面する問題の多くは、地域、国境、民族、宗教、環境などさまざまな要因が複雑に絡み合って起こっています。さらに、21世紀に顕著な地球規模の課題(global issues)が加わり、世界はますます混沌に向かっているといえます。これらの諸問題を解決するには、伝統的な枠組みに基づく学問研究に留まらず、常に変化する時代の要請にも対応しうる、総合的・学際的な基盤に立った教育・研究が不可欠となります。

東北大学大学院国際文化研究科は、国際的な視野に立った

日本と世界の多様な地域文化の研究、グローバル化する世界で人々が共生しうる社会の研究、そして地域やグローバル社会の基盤を支える言語の科学的研究の3つの領域で、既存の学問領域の枠組みを越えた学際的で総合的なアプローチによって教育・研究を推進します。また、それを通じて、豊かな教養と国際感覚を備え、グローバルに思考し活躍できる能力をもった専門職業人、および高度な専門知識と研究能力を備えた専門家の育成をめざします。

[国際文化研究科を支える教育領域]



国際文化研究科は創造的で高度な専門教育を提供します。

博士課程前期2年の課程（修士）

- Goal(人材育成目標):
グローバルに思考し活躍する専門職業人、教育者、研究者の育成

■最近の主な就職先:

地方公務員(宮城県)／公立中学校(宮城県)／私立中学校(宮城県、愛知県)／日本学生支援機構／日本赤十字社／東北学院大学／盛岡大学／東北芸術工科大学／近畿大学／アサヒビール／ディスコ／日本生命／日本通運／パナソニック／東日本旅客鉄道／富士通／マツダ／三菱東京UFJ銀行／明治安田生命保険／ヤマト運輸 ほか

■最近の修士論文のテーマ

- 過去の「不正」への賠償
→アフリカ系アメリカ人から見た日系アメリカ人ドレス運動ー
- 「三言」における中国の伝統的女性像研究
→伝統的価値観との比較を通じてー
- 沢柳政太郎とアジア
→帝国日本における一教育者の思想的探究ー
- 次世代自動車の普及が自動車リサイクルに与える影響
→ハイブリッド自動車を中心にー
- 国際人権論としての「慰安婦」問題
→「クマラスワミ報告書」をめぐる国連人権委員会での議論を中心にー
- 多文化状況におけるアイデンティティの形成
→オランダの補習授業校を例にー
- 「笑い」に関するオノマトペの日中対照研究
- 漢字語彙における日中間形態の習得に関する研究
- A Comparative Study of Refusal Strategies among Chinese Learners of Japanese and English: Is there a L2 centered pragmatic competence?
- Standard Japanese Speaking Tokyoite: Attitudes and Perceptions toward the Kyoto Dialect

博士課程後期3年の課程（博士）

- Goal(人材育成目標):
グローバルな素養を基礎として先端的研究を推進する研究者、専門職業人

■最近の主な就職先:

東北大学／山形大学／鳥取大学／岩手県立大学／静岡県立大学／島根県立大学／東北学院大学／東北福祉大学／東北文化学園大学／国際医療福祉大学／中部大学／ノートルダム清心女子大学／高松大学／松山大学／浙江大學(中国)／江蘇大學(中国)／蘇州大學(中国)／淮陰師範學院(中国)／新羅大學(韓国)／康寧大學(台湾)／グラウウィヤヤ大学(インドネシア)／シアクアラ大学(インドネシア) ほか

■最近の博士論文のテーマ

- 18世紀末から19世紀初頭の英国における中国イメージ
→マカオ・上海・香港の記録を中心にー
- ガーニッシュ朝期イランにおける都市変容
→都市間の比較分析を通じてー
- 日本近海での漁業協定の果たす役割と課題
→係争海域における比較分析を通じてー
- 近代日本における知識人の中国認識
→中国文学研究会を中心にー
- 日本語禁止表現の性質と類義関係についての研究
- あいさつの日中対照研究
→場面と対人関係による使用制限を中心にー
- 日本語のアクセント学習におけるF0のバリエーションの効果
→中国語母語話者を対象としてー
- The Manner/Result Complementarity in Chinese Motion Constructions: Synchronic and Diachronic Perspectives
- 中国の近代小説における日本の私小説的要素
→創造社の身辺小説と魯迅の自我小説を中心としてー
- Building Community Resilience in Tsunami Risk Area: Evidence from Pancer Hamlet, Banyuwangi District, Indonesia

講座 Departments

国際文化研究科は、1993年(平成5年)発足以来、国際地域文化論専攻(6講座)、国際文化交流論専攻(7講座)、国際文化言語論専攻(5講座)から成る3専攻体制で教育・研究を行ってまいりました。近年、急速に進展するグローバル化、そして社会全体の教育ニーズの多様化や国際的な研究動向の変化に的確に応え、より一層発展的かつ実践的な教育プログラムを実施するため、2015年(平成27年)4月、3専攻体制を1専攻体制に変更し、18講座を8講座に再編することによって、より先鋭的な研究を推進し、本研究科独自の教育プログラムを構築しました。

地域文化研究系 ～異文化への深い理解力を育む～

ヨーロッパ・アメリカ研究講座 Department of European and American Studies



近代世界に大きな影響を与えてきたヨーロッパとアメリカは、様々な民族や言語が交錯する多層的地域といえます。当講座は、両大陸の諸地域にみられる固有性と多様性を考究するとともに、ヨーロッパ・アメリカ文化の総体的把握を進めます。

アジア・アフリカ研究講座 Department of Asian and African Studies



現代世界の鍵を握るアジアやアフリカのダイナミズムを理解することは、焦眉の課題です。当講座は、アジア・アフリカ地域の中でも特に中国やイスラーム圏の文化の特質について、宗教、歴史、文学等の複合的な観点から実証的な研究を推進します。

国際日本研究講座 Department of Global Japanese Studies



グローバル化の時代において、世界における日本の位置づけを理解することは急務といえます。当講座は、日本における異文化変容、日本文化の海外受容という双方向から、比較文化・文学、思想史学等の研究方法を駆使して、先端的な日本学の構築を目指します。

グローバル共生社会研究系 ～グローバルな問題の解決力を育む～

国際政治経済論講座 Department of International Politics and Economy



「国際政治」と「国際経済」が密接に関わりあう現代国際社会の理解を深めるため、グローバル化のなかの日本とアジア、日本とアメリカ、アジアとアメリカの政治経済関係に焦点を絞り、複眼的な視野から複雑で多様な現実問題を解明します。

国際環境資源政策論講座 Department of International Environment and Resources Policy



資源枯渇や環境保全など、地球環境問題の解決が現代ほど求められる時代はありません。当講座は、公共政策の立案に資する基礎的素養を培い、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成を目指して研究と教育を進めます。

多文化共生論講座 Department of Multiculturalism



グローバル化のもと、世界の一体化が進展すればするほど異文化との共存という課題が重要になります。この課題解決に資する人材を育成すべく、グローバルな多文化共生のありかたを学際的・総合的に探求します。

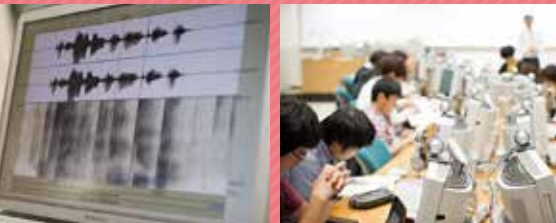
言語総合研究系 ～コミュニケーション能力を育む～

言語科学研究講座 Department of Theoretical Linguistics



グローバル時代において言語によるコミュニケーションはますます重要性を増しているといえます。当講座は、世界の多様な言語間の共通性・相違を比較研究し、自然言語の様々な特質を解明します。

応用言語研究講座 Department of Applied Linguistics



言語科学研究講座と連携しながら、独自の視点から応用言語学と言語教育を推進する能力を養成するためのプログラムを提供します。加えて、eラーニング等のICTを活用した教育分野での研究と実践を一層推進するためのプログラムを提供します。

英語コースおよび共同大学院 English and Joint Graduate Programs

言語総合科学コース (IGPLS)



言語総合科学コースは、人間の言語を、言語学、心理学、脳科学や情報科学など複合的な視点から研究する学際的なプログラムです。言語学や関連領域研究の最新の知識を礎とし、言語コミュニケーション、言語獲得と喪失、言語と脳、自然言語処理など、言語の様々な側面を総合的に理解することを目指します。2年間の修士課程と3年間の博士課程からなるこのコースは、授業を含む教育指導のすべてが英語で行われており、世界中の様々な国の学生が学んでいます。

「グローバル・ガバナンスと持続可能な開発」プログラム (G2SD)



国際文化研究科に設置された、修士課程と博士後期課程で構成される大学院プログラムです。すべての授業は英語で提供されます。プログラムの目的は「グローバル・ガバナンス」「持続可能な開発」という、今日の世界が直面する二つの課題に取り組む能力の育成です。批判的な理論検証と問題解決型の研究を通じて、既存の思考様式にとらわれず、学際的な知識を駆使して新しい分析枠組みを構築する能力の育成を図ります。

日本学国際共同大学院 (GPJS)



2018年度より東北大学の人文社会科学系全部局の協働による「日本学国際共同大学院」がスタートします。この博士前期・後期課程一貫の学位プログラムは、表象、資本、共感という独自の切り口からイメージ、データ、文献を駆使し、海外の連携大学とともに、従来の日本学の枠組みを超えた新しい日本学のプラットフォーム構築を目指し、現代社会の課題に挑むリーダーを養成します。プログラム学生には奨学金が支給され、海外の大学での研究も支援されます。

災害科学・安全学国際共同大学院プログラム (GP-RSS)



災害科学・安全学分野において成果をあげている世界トップクラスの教員を配置し、海外トップレベル研究者の招聘、海外連携教育研究機関との積極的な研究・学生交流を行うことにより、学術的分野からフィールドに至る広域的な分野において、高い専門性を有し国際的に活躍できる人材の育成を目指した実践的国際教育を行います。講義は英語により行われ、QE(Qualifying Examination)の導入による教育の質の保証を行います。プログラムを修了すれば、学位記にその旨が付記されるとともに、海外連携先との協定が整っている場合には国際共同学位を証明する証書を授与します。



東北大学は常に世界トップレベルの研究・教育を創造します。

東北大学は、建学以来の伝統である「研究第一」と「門戸開放」の理念を掲げ、世界中から研究者および学生を受け入れ、世界水準の教育環境を提供します。また、実学を尊重し、研究成果を社会が直面する諸問題の解決に役立て、指導の人材を育成することを目指しています。

海外からの評価

THE Japan University Rankings 2019

国内3位

QS World University Rankings 2019

世界77位

QS World University Rankings 2019

国内5位

国内での実績

【朝日新聞 大学ランキング「高校からの評価 総合評価」】
朝日新聞出版「大学ランキング」2019

1位

【生徒を伸ばしてくれる大学】
教育進学総合研究所2018.10

1位

【大学発ベンチャー企業数】
帝国データバンク「大学発ベンチャー企業の実態調査」2018.2.27

3位

【外国企業との共同研究費 受入額】
文科省「平成28年度 大学等における産学連携等実施状況調査」

1位

【科学研究費補助金】
2017年度文科省資料より(2017年10月公表)

4位

教員メッセージ Message from Faculty



クリントン・ゴダール 准教授
国際日本研究講座

地域文化研究系では、ヨーロッパとアメリカ、イスラーム圏とアジア、日本を対象とした学際的かつ多角的な視点からの教育・研究が行われています。テキストや映画など、様々なメディアを通して文化を研究し、学際的な視点から問題を考え、グローバルな視野を得たい学生を歓迎します。



高橋 大厚 教授
言語科学研究講座

言語総合研究系では言語をキーワードに研究を行っています。言語能力の基盤はどのようなものか、個別言語はどのような特徴を有するか、言語は実際どのように使われるのか。外国語はどのように教えるのが有効か、などの問いに多様な視点から取り組んでいます。



藤田 恭子 教授
多文化共生論講座

グローバル共生社会研究系では、グローバル化がもたらす諸問題と可能性に、政治経済、環境、文化の視点から学際的にアプローチします。フィールドワークを含む各種資料の収集と分析、時代を越えるの検証などを通して、現代社会が直面する問題を考えます。

学生メッセージ Message from Students



ロイケオ・スィリアチャー
[言語科学研究講座]

言語総合研究系に所属し、認知言語学の観点から日本語とタイ語における自称詞の対照研究をしています。先生方が熱心に指導してくれるのはもちろん、言語に関する様々な専門の先生がいるので、自分の研究に応用できる様々な観点からの有意義な意見ももらえます。研究科全体はなかなか雰囲気、視野を広げられる講演会やイベントなどが多く行われています。研究室の設備も整っているため、研究するのにとても良い環境です。

阿部 純

[ヨーロッパ・アメリカ研究講座]

地域文化研究系に所属し、アメリカ合衆国における日系人強制収容政策に対する賠償問題について研究しています。修士課程では、博士課程およびフェローの先輩方から多くのアドバイスを助ましの言葉をいただきました。また、院生主体の研究会では、読書会や発表会を通じて「国際文化」や各々の研究テーマについて活発な議論が行われています。先輩・後輩、そして講座の枠を超えた交流があることが本研究科の魅力のひとつだと思います。

